

# 四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第67号（令和4年7月発行）

令和4年は、3月に第1回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

## 主な質問・答弁要旨

### 三木隆議員



主な質問項目  
「カーボンニュートラル」に対応する  
四日市港の活用のあり方について

- コンビナート各社は、2030年に向けて約3割から4割削減するという目標は掲げているが、船舶におけるカーボンニュートラルの対応、2030年を一つの区切りとすれば、どのような変化が予想されるか。
- 船舶産業では、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）グリーンイノベーション基金を活用して、2026年の竣工を目指した船会社と船舶エンジンメーカーの共同によるアンモニア燃料エンジンの開発、2030年を目標とした複数の船舶エンジンメーカーのコンソーシアムによる水素燃料エンジンの開発などの取組が進められている。
- 石油コンビナートを擁する四日市港において、カーボンニュートラルへの取組は大きな課題があると考えているが、どのような考えでカーボンニュートラルポートに取り組んでいくのか。
- 来るべきカーボンニュートラルの時代においても、コンビナート企業は本市にとって不可欠な産業基盤であり、事業を継続いただくことが重要と認識している。また、コンビナートと共に発展を遂げてきた四日市港においても、カーボンニュートラルポートを形成することが必要と考えている。現状や課題の調査、本市に実装可能な事業内容の検討、カーボンニュートラルポート形成計画の策定を通じて、港湾競争力等の強化を図るための取組について議論していきたい。

### 石田成生議員



主な質問項目  
海岸保全施設の整備について  
四日市港の水際対策について  
「カーボンニュートラルポート」の形成について

- 海岸保全施設の整備については、平成28年3月と平成29年3月に質問をしてから5、6年がたっているが、整備状況はどうなっているのか。
- 平成27年度に策定した「海岸保全施設整備方針」に基づいて整備を進めている。塩浜地区・石原地区については事業規模が大きく、コンビナートの近接が工事難度を高めるため、これまで国による早期事業化の検討を行うよう要望活動を行ってきた。国からは、その実現のための課題をもっと具体的に示す必要があること、現地の状況に合致した手法を柔軟に検討するよう助言があった。組合としては、早期事業化という観点から、直轄事業だけでなく、補助事業も選択肢の一つとして検討することとし、整備方針や事業実施上の課題を整理するとともに、背後企業等の理解や協力を得ることに努めたい。
- 塩浜・石原地区の整備で、どの工法が一番早くできるかを探るのはいい。管理者は国交省出身でもあるので、ぜひサポートをかける作戦を練ってもらえないか。
- 四日市のコンビナートは日本の中でもまだ伸びており、我が国の重要施策であるカーボンニュートラルについて、早期に手を挙げることで、四日市港が重要な港湾との位置づけとなり、採択順位が上がる可能性もあるのではと考える。要望のタイミングを見極めつつ、事業化のスピードも大事に、直轄、補助両方を考えながら進めていきたい。